

1

プレスリリース

NMAO | PRESS RELEASE

2011/08/11

世界制作の方法

“Ways of Worldmaking”

2011年10月4日(火)–12月11日(日)

国立国際美術館

国立国際美術館では、「世界制作の方法」展を開催いたします。

今回、出品する作家たちは、美術作品が絵画や彫刻といった枠組みから大きく踏み出し、他領域への侵犯を遂げてきた歴史的事実を前提として、先行世代が為し得なかった課題を自然な形で克服し、自らの存在を主張する。例えば、近年の情報技術の発展に伴った新しいメディアの使用に対して、そのメディアの特性が目立たなくなる程に表現を先鋭化し、表現ツールの一つとして自由闊達に用いる。あるいは、彼らは、インスタレーションといわれる展示空間全体を表現の場とする方法論が、場所性という外的要因に囚われて表現が硬直化していった状況に対して、表現することの根源的な地点まで立ち戻り、展示空間を自らの表現を確立する場として捉え直し、その方法論を再解釈するのである。

次に、それぞれの出品作家の特性を確認しよう。エキソニモは、ハッカーとしての才能によってウェブ空間上にもう一つの世界を体現する。クワクポリョウタは、鉄道模型を手段として用い、メディアアートのインタラクティブな性格を見る者の中に見出す方法を考える。それぞれ、新旧のメディアを舞台に縦横無尽に活動する。また、伊藤存と青木陵子は、美術の本流として扱われてこなかった刺繍やドローイングによって自由な連想を展開する。2人は、その自由なイメージをアニメーションの中で交差させる。さらに、展示空間全体を用いる表現様式を再解釈するのは、パラモデルの、プラレール等を媒介とした制作工程を見せる完成型を求めない表現であり、大西康明の日常的な素材を利用した奔放自在な形態を生成させる手法である。さらに、限定された空間を、やはり日常的な事物のイメージや身振りの連鎖によって伸縮させるのは金氏徹平の作品であり、鬼頭健吾は、それら日用品による様々な仕掛けによって異化作用を誘引し異空間を生み出す。彼らは、空間

を物理的な限定要因として捉えることがない。あるいは、木藤純子は光や風といった自然現象を予感させる装置としての空間を創出し、人々の情緒的な感受性を導き出す。また、人々が社会の中で陶冶され続ける隠蔽された共通理念を、通奏低音のように観る者に響かせるのが半田真規の作品なのである。

本展のタイトルは、20 世紀アメリカの哲学者ネルソン・グッドマンの著書『世界制作の方法』に由来している。同書の中でグッドマンは、記号論的方法によって世界の多数性を論じている。「世界そのもの」はいかなるヴァージョンにも所属せず、その実体は存在しないと述べ、「世界」はあくまで制作されるものであり、それはいくつものヴァージョンを伴うことである、と展開する。世界の複数性を論じたグッドマンの記号論的観点は、今回の展覧会を構成する作家たちの作品を読み解くために示唆を与えるところが大きいだろう。以上の様に、国内外で活躍する 6 人と 3 組の日本人作家がつくり出す様々な手法による先鋭的な作品群を通じて、「世界制作の方法」が見る者の前に立ち現れることを確信するものである。

■開催情報

- ◇展覧会名 世界制作の方法 Ways of Worldmaking
- ◇会 期 平成 23 年 10 月 4 日(火)～12 月 11 日(日)
- ◇会 場 国立国際美術館 B3 階展示場 (大阪市北区中之島 4-2-55)
- ◇開館時間 午前 10 時から午後 5 時、金曜日は午後 7 時まで開館 (入館は 30 分前まで)
- ◇休 館 日 毎週月曜日、ただし 10 月 10 日(月・祝)は開館、10 月 11 日(火)は休館
- ◇観 覧 料 当日／一般 850 円、大学生 450 円
前売／一般 700 円、大学生 350 円
団体／一般 600 円、大学生 250 円 ※団体は 20 名以上

※高校生以下並びに 18 歳未満、心身に障害のある方とその付添者 1 名：無料
(証明できるものをご提示いただく場合があります)

※前売券は、8 月 3 日(水)～10 月 3 日(月)までの期間限定販売です。

チケットぴあ、セブンイレブン、サークルKサンクス (P コード 764-803)、ローソン
チケット (L コード 52980) で販売します。

※本料金で「アンリ・サラ」、「中之島コレクションズ 大阪市立近代美術館&国立国際美術館」もご覧になれます。

- ◇主 催 国立国際美術館
- ◇協 賛 財団法人安藤忠雄文化財団、公益財団法人野村財団、
財団法人ダイキン工業現代美術振興財団
- ◇協 力 山口情報芸術センター[YCAM]、有限会社植田屋染工場、株式会社小津看板

■出品作家（9組）

エキソニモ、パラモデル、青木陵子+伊藤存、クワクポリョウタ、木藤純子、鬼頭健吾、金氏徹平、大西康明、半田真規

■関連イベント**① 講演会**

- ・「西ヨーロッパ中世の精神」講師：八木雄二（哲学者・文学博士）
中世の世界観に対して新たな知見を提示します。
10月10日（月・祝）14:00～ 場所：B1階講堂
- ・「宇宙創成の論理」講師：牟田淳（東京工芸大学准教授）
宇宙発生のメカニズムに関して最新の理論を紹介します。
10月16日（日）14:00～ 場所：B1階講堂

② アーティスト・トーク

- ・「世界制作の論理1」木藤純子、半田真規、司会：中井康之（当館主任研究員）
10月8日（土）14:00～ 場所：B1階講堂
- ・「世界制作の論理2」パラモデル、鬼頭健吾、司会：中井康之
10月9日（日）14:00～ 場所：B1階講堂
- ・「世界制作の論理3」伊藤存、青木陵子、金氏徹平、司会：中井康之
11月6日（日）14:00～ 場所：B1階講堂

③ シンポジウム

- ・「メディアアートと世界制作」エキソニモ、クワクポリョウタ、畠中実（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 学芸員）、中井康之
11月13日（日）14:00～ 場所：B1階講堂

④ コンサート

- ・「Desktop Worldmaking」エキソニモ、youpy、比嘉了
12月11日（日）14:00～ 場所：B1階講堂

※各日とも無料、定員130名、当日10:00より整理券を配布します。

■ 出品作家紹介

エキソニモ

1996年結成。千房^{せんぼう}けん^{すけ}輔[1972年東京都生まれ]と赤岩^{あかいわ}やえによるアート・ユニットとして、東京と www.exonemo.com を拠点に活動。デジタルとアナログ、ネットワーク世界と実世界を柔軟に横断しながら、テクノロジーとユーザーの関係性を露わにし、デジタル・メディアが現代社会へ与えるインパクトについて、ユーモアのある切り口と新しい視点で作品に反映させる実験的なプロジェクトを数多く手がける。2006年、《The Road Movie》がアラス・エレクトロニカ（オーストリア）ネット・ヴィジョン部門でゴールデン・ニカ賞を受賞。近年参加した展覧会に「Synthetic Times」（中国美術館、2008年）がある。



《Object B》 2006 Courtesy the artist and The Yamaguchi Center for Arts and Media[YCAM]

山口情報芸術センター『WORLD B 意識を裏返し、B面をPLAYせよ』展示風景

パラモデル（林泰彦^{はやしやすひこ}＋中野裕介^{なかのゆうすけ}）

林泰彦[1971年東大阪市生まれ]と中野裕介[1976年東大阪市生まれ]によるアート・ユニット。共に京都市立芸術大学の出身だが、林は構想設計、中野は日本画を専攻している。2001年に結成、2003年から「パラモデル」と名乗るようになった。「極楽模型」を制作のテーマとし、プラレール（青いプラスチックのレールを用いた幼児向け鉄道模型玩具）を展示空間内の床、壁面、天井などに張り巡らせた作品が有名。他にも絵画、立体、写真、アニメなど多様な表現手法を用いている。2010年に西宮市大谷記念美術館で個展「パラモデルの世界はプラモデル」を開催。近年参加した展覧会に「アジア・アート・ビエンナーレ」（国立台湾美術館、2009年）がある。



《paramodelic - graffiti》 2009 ©paramodel, Courtesy

National Taiwan Museum of Fine Arts, Photo paramodel

国立台湾美術館『アジア・アート・ビエンナーレ 2009』展示風景

あおきりょうこ いとうぞん
 青木陵子+伊藤存

伊藤存[1971年大阪府生まれ、京都府在住] 京都市立芸術大学卒業。独特な感覚で、刺繍によるペインティングや映像作品を制作。2003年、ワタリウム美術館で個展「きんじょのはて」を開催。

青木陵子[1973年兵庫県生まれ、京都府在住] 京都市立芸術大学卒業。イメージーションが増殖していくようなドローイングによる作品。07年「マイクロポップの時代：夏への扉」（水戸芸術館）に出品。2007年「ドクメンタ12」（カッセル、ドイツ）に参加。

2人はコラボレートして映像作品を制作する。



《説子／Children of Veins》 2009 Courtesy the artists and The Museum of Contemporary Arts, Sydney. Photo Jemi Carte MCA（現代美術館）、シドニー『ルイーザ・ビューファルデチ&伊藤存』展示風景

クワクポリヨウタ

1971年栃木県生まれ。筑波大学大学院修士課程デザイン研究科総合造形修了、国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）アートアンドラボ科卒業。1998年から主にエレクトロニクスを用いて、アナログとデジタル、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる関係性をテーマにした作品を発表。第14回文化庁メディア芸術祭のアート部門で《10番目の感傷（点・線・面）》が優秀賞を受賞。



《10番目の感傷（点・線・面）》 2010 Courtesy the artist and NTT InterCommunication Center [ICC]

撮影：木奥恵三

きとうじゅんこ
 木藤純子

1976年富山県生まれ、京都市在住。成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス研究生修了。2009年美濃加茂市民ミュージアム（岐阜）にて個展「Calling」を開催。2011年「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway 世界の深さのはかり方」（東京都現代美術館）に参加した。展示空間全体を用いて、風や光といった自然現象を想起させるようなシステムを作品としている。



《Sound of Silence》 2009 Courtesy the artist and Minokamo City Museum 撮影：市川靖史

美濃加茂市民ミュージアム、岐阜『Calling 木藤純子展』展示風景

 きとうけんご
 鬼頭健吾

1977年名古屋市生まれ。1999-2001 自主運営スペース dot の設立、運営に携わる。京都市立芸術大学大学院修了。2008年に五島記念文化賞新人賞を受賞。2011年「ARTIST FILE 2011 - 現代の作家たち」（国立新美術館、東京）に参加した。現在、文化庁芸術家在外派遣研修員としてベルリンに滞在。多様な素材を用いて表現主義的な世界を創生する。



《Inconsistent Surface》 2011 Courtesy the artist and The National Art Center, Tokyo 撮影：上野則宏

国立新美術館『アーティスト・ファイル 2011—現代の作家たち』展示風景

かねうじてっぺい
 金氏徹平

1978年大阪生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。2005年横浜トリエンナーレに参加。2009年、横浜美術館で個展『金氏徹平：溶け出す都市、空白の森』を開催。近年参加した展覧会に「シンガポール・ビエンナーレ 2011」（シンガポール国立美術館、2011年）がある。広告写真やプラスチック製品、フィギュアなど、既成のイメージやモノを解体し、再構成する。



《白地図》 2005 Courtesy the artist, Shugo Arts and Daiwa Radiator Factory Co., LTD. 撮影：森本美絵

大和ラヂエータービューイングルーム、広島『大和ラヂエータービューイングルーム vol.01』展示風景

 おおにしやすあき
 大西康明

1979年大阪生まれ、大阪在住。京都市立芸術大学大学院修了。2002年第5回岡本太郎記念現代芸術大賞展大賞受賞。2011年に愛知県美術館で個展「体積の裏側」を開催。日常的な素材を用いて、目に見えない現象や気配をとらえて造形化する。



《体積の裏側》 2009 Courtesy the artist and Aomori Contemporary Art Centre 撮影：山本糾

国際芸術センター青森 アーティスト・イン・レジデンス・プログラム 2009/春『HOME』展示風景

はんだまさのり
半田真規

1979年神奈川県生まれ、東京在住。東京芸術大学卒業。2001年東京芸術大学構内にて初の展覧会「桃源郷」を開く。その後、屋外も含め数々の展覧会を開催。茅ヶ崎や御所浦など、自然の中での創作・展示も多い。2007年「夏への扉-マイクロポップの時代」（水戸芸術館現代美術ギャラリー）などに参加。2008年「ロレックス メンター&プロトジェ アートプログラム」（欧州）でプロトジェ（生徒）として選ばれ、レベッカ・ホルンに一年間師事する。



《世界境地博覧会》2007 © Masanori Handa, Courtesy Ota Fine Arts, Tokyo and Contemporary Art Center, Art Tower Mito
水戸芸術館『マイクロポップの時代：夏への扉』展示風景

掲載の画像を含む最新のプレス画像は、別紙申込書または国立国際美術館ウェブサイトにて申請いただけます。

[<http://www.nmao.go.jp/press/index.html>]

お問い合わせ先

TEL: 06-6447-4680 (代表) FAX: 06-6447-4698

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-2-55 国立国際美術館